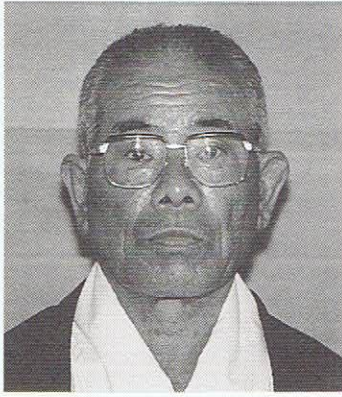




五十鈴会結成に当って

共栄社 三宅英幸

想い出せば、それは昭和二十年の弥生三月、政局は第二次世界大戦は、本土決戦とならんとす折。

草深き山里の七地、今は亡き山脇芳一先生宅の中座敷

「わが国を いかにと問わば 天津日の

豊栄昇りの 影をささなん」

導きの舞の最初に教わった神歌です。

時に十七才、そして猿田彦、事代主と習い同年十月成羽社に入り、師匠は元より諸先輩方々の厳しく、そして情熱溢れるご指導を賜り一年が過ぎ三年が去り、舞う度毎に「なに人に負けてなるものか」と自分の心に鞭を打ち春風、秋雨、半世紀の才月が流れました。

今、過ぎ去りし昔を思えば、今日の私存るは師匠及び諸先輩方々のお陰と心から感謝致して居る昨今です。

是れを期に生命の続く限り神楽の道に精神致す所存です。

共々に心を合せ、備中神楽の発展に尽そうではありませんか。

又、前途有望な若き神楽師の皆様、自分は神楽師である事を肝に銘じ共に其の行動を慎しみ世間の指弾を受けぬ様心掛け、一層のご奮闘をお祈り致します。